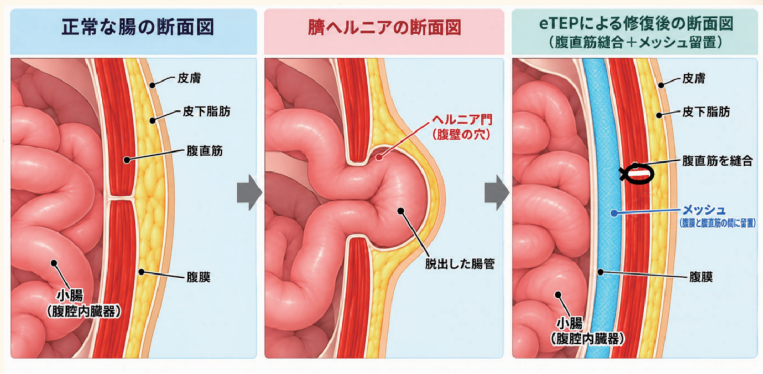


腹壁ヘルニアに対する新しい低侵襲手術 eTEPを開始しました

古賀総合病院 外科では、2026年5月より、臍ヘルニアや腹壁癒痕ヘルニアに対する新しい低侵襲手術として、eTEP(enhanced-view totally extraperitoneal)法を導入しました。

◆ 腹壁ヘルニアとは

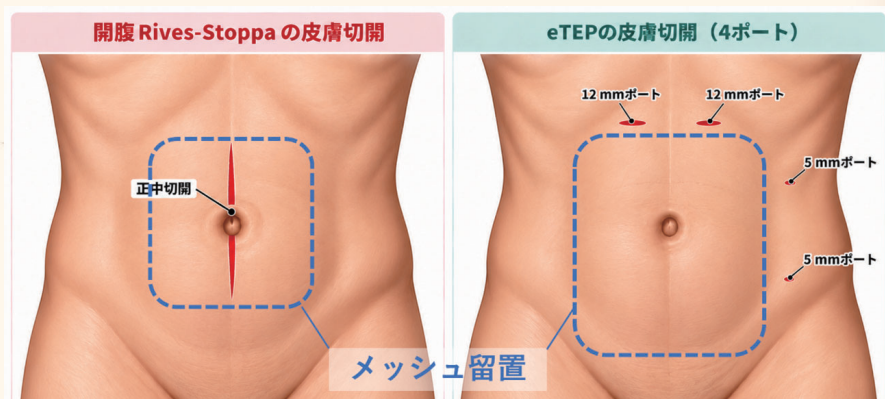
腹壁ヘルニアは、お腹の壁の弱くなった部分から脂肪や腸管などが脱出する病気です。おへその部分にできるものを「臍ヘルニア」、以前の手術の傷にできるものを「腹壁癒痕ヘルニア」といいます。



◆ eTEP法とは

腹腔鏡を用いて腹筋と腹膜の間にメッシュ(人工の補強材)を留置して、腹壁を修復します。

従来、開腹手術で行ってきた腹壁再建を、できるだけ小さな創で行うことを目指した手術です。



メッシュが腸管などの腹腔内臓器と直接接触しないことも特徴です。

当院では

すべてのヘルニアにeTEP法が適しているわけではありません。当院では

「できるだけ低侵襲に、しかし必要なところはしっかりと治す」

ことを大切に、ヘルニアの大きさや場所、体格、手術歴などに応じて適切な治療方法を選択しています。

おへそや以前の手術の傷の膨らみなどでお困りの方は、当院外科へご相談ください。